

設立20周年記念誌

あゆみ

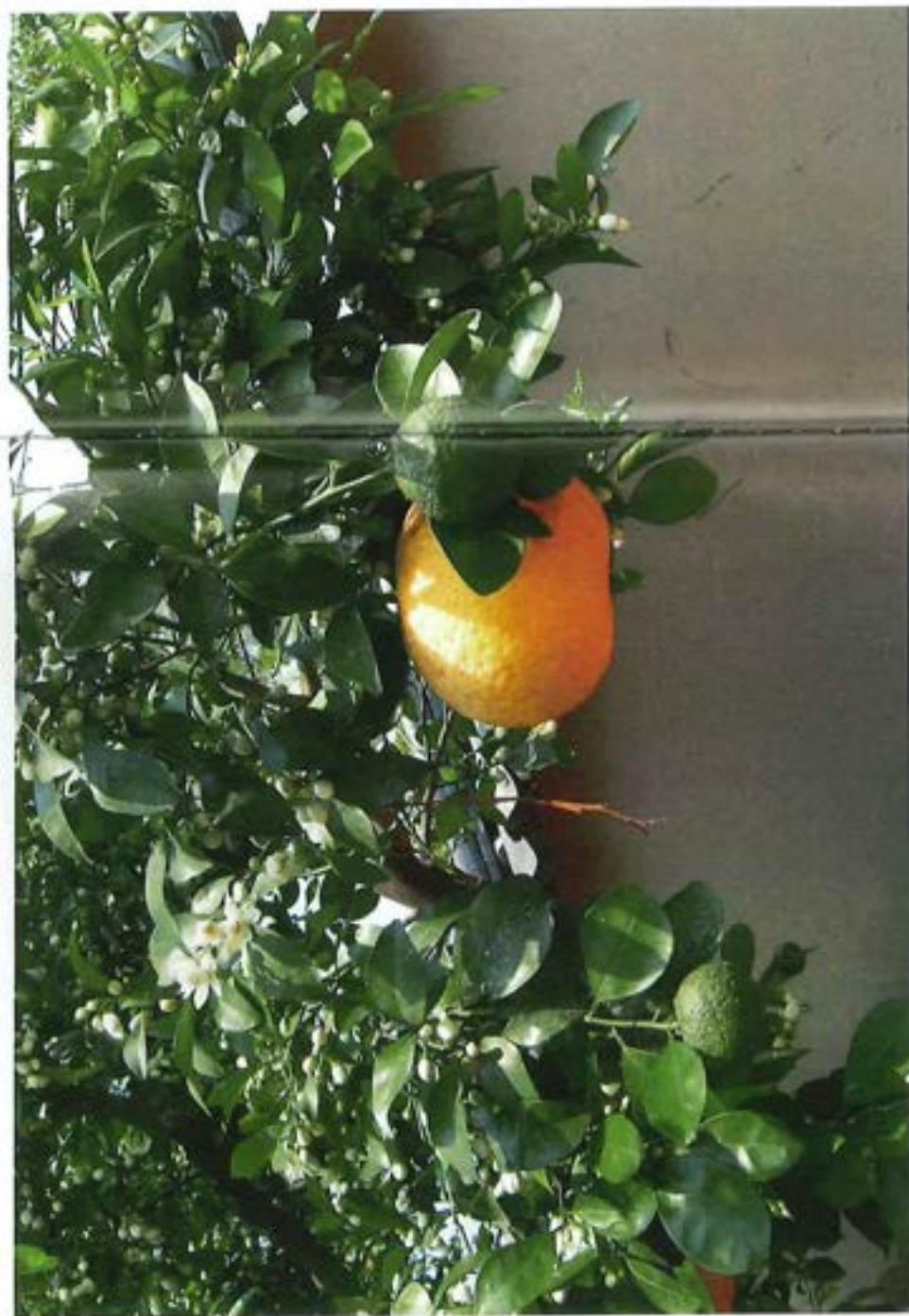
社団法人 萩広域シルバー人材センター

設立20周年記念誌

あゆみ



社団法人 萩広域シルバー人材センター



目次

理事長あいさつ	1
祝 賀 市長・町長・連合会長	2
20年のあゆみ	5
浜佐・田万川統合までのあゆみ	25
親睦会・同好会活動	29
発注者の声	31
会員の広場	35
表彰者の紹介	38
会報誌「いまだ青葉」創刊号～39号	39
費 料	41
歴代役員・職員	44
現役員・職員紹介	47
設立20周年記念事業実行委員会 編纂後記	49

祝 辞



理事長 池永 勲

設立20周年を迎えて

県下で初めての2市1町(萩・長門・三隅地区)にまたがる、広域シルバー人材センターとして、昭和61年9月に設立され、関係機関・企業・住民各位の御支援、御協力を頂て、歴代の役員、会員の熱意と努力により成長発展をし、今年20周年の節目を迎えることに、心から敬意と感謝を申し上げ皆様と共にお祝いしたいと思います。

当事業は、健康で働く意欲を持った高齢者が、知識・技能・経験を生かしながらの就業を図り、活力のある地域社会づくりに寄与することで、設立当初の会員数347人、契約額1千7百万円、就業率83.4%で計画を上回る好結果を得ました。その後、平成4年3月に萩・長門・三隅地区の広域シルバー人材センターを分割、同年4月に新たに、萩市・阿武町・むつみ村の広域シルバー人材センターを設立、会員数402人、契約額1億4千8百万円、就業率80.3%で、以後会員の活動強化、努力によって順調に実績を積み重ねてきました。

また、平成17年4月には、社団法人須佐・田万川広域シルバー人材センターと統合し、会員数804人、契約額3億5千2百万円、就業率90.0%と事業範囲も広がって多くの就業を遂げながらも、役員、会員の熱意と粘り強い努力により健全な運営を致しております。

今後の課題は、統合により平成18年から22年までの5ヶ年で削減額増額を講じながら、国・県の補助金が削減されます。このことから、当シルバー人材センターとしても、今後の運営が厳しくなるため財源5ヶ年計画を策定して、その方針に従い、収入源における就業機会の開拓と拡大、支出面では、経費の見直し削減を図り、自主財源の確保に努力をして、足・腰の丈夫な地域社会にたくましくはならないシルバー人材センターとして発展継続することを念願するものであります。

20周年を契機に初心にかえり、シルバー人材センターの基本的理念であります「自主・自立・共働・共助」の精神を念頭に、地域に愛される魅力あるシルバー人材センターとしてがんばって参ります。今後とも、関係各位のご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。会員・役員・関係の皆様のご活躍とご健勝を祈念し、ご挨拶いたします。

ごあいさつ



萩市長 野村 興兒

お祝いの言葉

社団法人萩広域シルバー人材センターの設立20周年を心からお慶び申し上げます。萩広域シルバー人材センターの会員の皆様方におかれましては、シルバー人材センターの発展のため、日夜ご尽力され、市政に対しましても多大なご協力をいただいておりますことに、ますます深く感謝と敬意を表したいと思います。

我が国の経済は、輸出・生産の増加による企業収益の改善や雇用に推移する個人消費等により、景気回復の途上にあります。地方経済に目を向けると、中小企業とりわけ小規模企業は、未だ景気回復を実感できる状態にはなく、以前にも増して厳しい環境下にあります。

シルバー人材センターを取り巻く環境も大きな変革の時期であり、我が国の合計特殊出生率は2004年時点で1.29に低下し、少子化が進む一方、平均寿命の伸長とともに高齢化が進み、2007年から総人口は減少に転じ、労働力人口も減少することが予想されます。

山口県では、高齢化が全国よりも10年近く早く進んでいます。特に、萩市においては高齢化率が県平均よりも高く、少子・高齢化が急速に進捗しております。今後、意欲と能力のある高齢者の方々が活躍される場を提供することが課題であり、シルバー人材センターの役割は大きいと考えっております。

また、2007年から2009年にかけて団塊の世代の大量退職時代(2007年以降)が到来することとなり、団塊の世代の受け皿として就業分野の開拓や職業能力の開発が期待されるのであります。

本年は萩市が誕生して2年目に当たり、新市建設計画で定める「自然と歴史、文化に抱かれた豊かやうあるまゝのまち」の実現を目指し、各種産業基盤の整備を促進するとともに森林水産業及び商工業の振興を図り、調和のとれた市政の発展を推進するよう努力しているところであります。

どうか皆様方におかれまして、今後任職のニーズはますます多様化していくと思われませんが、シルバー人材センターの発展のため、更にご協力を賜りますようお願い申し上げます。

終わりに当たりまして、社団法人萩広域シルバー人材センターのますますの発展と皆様方の御回愛御研さん心から祈念いたします。お祝いの言葉といたします。



町長 中村 秀明

お祝いの言葉

社団法人萩広域シルバー人材センターの設立20周年記念を心からお祝い申し上げます。

貴センターにおかれましては、昭和61年に秋・長門・三隅地区広域シルバー人材センターとして設立されたところですが、平成4年に1市11シルバー人材センターの基本方針のもとに萩広域シルバー人材センターとして分割編成を経て、本年20年という記念の年を迎えられたわけであります。

この間、高齢者の就業機会の確保のため、期間にその事業展開をしてこられましたことは、役員をはじめ会員の皆様方のご努力の賜であるところから深く敬意を表するものであります。

さて、我が国は、これから団塊の世代が定年退職を迎える等、高齢化の進展に対応するため高齢者の就業機会を提供するシルバー人材センターの役割はますます重要になってくると思われまます。

阿武町といたしましても、基本構想、基本計画の中で、高齢者の方々が本来持っている能力を生かす場づくり、環境づくりなどの推進を図ることとしており、その実現に向け各種団体の協力を図っているところであります。

今や当地域にとりまして、貴センターはなくてはならない存在となっております。今後、さらに事業拡大が図られ、地域社会の活性化に貢献されることを期待しております。

どうか会員各位におかれましては、長年培われた豊富な経験や知識を十分に発揮され、地域社会の発展により一層ご尽力いただきますようお願い申し上げます。

終わりに、貴センターの今後ますますのご発展と会員の皆様のご健康、ご活躍を心からお祈り申し上げます。お祝いの言葉といたします。



社団法人山口県シルバー人材センター連合会
会長 西村 太一

萩広域センター20周年祝辞

このたび、社団法人萩広域シルバー人材センターが設立20周年を迎えられましたことを、心からお祝い申し上げます。

貴センターにおかれましては、昭和61年に設立以来シルバー事業の推進と発展にご尽力され、地域社会のために大きな貢献を得ながら事業を展開し、元氣な高齢者の方々が、この事業のもとに生き生きと働き、健康と生き甲斐を見出しながら、活力ある高齢社会作り貢献されているところであります。

これもひとえに理事長をはじめ、役員・会員の皆様方や地域社会の方々、そして何よりも山口県・萩市・阿武町ご当局の、この事業に対する深いご理解とご支援の賜物と感謝申し上げます。

ところで、平成の大合併により、27を数えた本県のシルバー人材センターも本年4月には15センターに統合され、大規模化、広域化されてまいりました。さらに、来年には、団塊の世代がシルバー世代を迎えることとなり、これらのニーズに対応するため、多様な就業形態や就業機会の提供など、高齢者のアンダーストアップセンターとしての役割が求められています。

こうした中、シルバー事業の果たす役割は益々重要性を増し、これからの高齢社会に欠かすことの出発点ない事業として期待も高まっております。

一方、国の行財政改革に伴う運営費補助の見直しに加え、自主財源の確保や運営の効率化など一層の自立化に向けた取り組みが求められています。

私ども連合会と致しましては、県下シルバーが一丸となって、センター事業の原点である「自主・自立、共働・共助」を理念とした事業運営に努め、こうした環境の変化や課題に対応した活力あるセンターづくりを目標として参りたいと思っております。

どうか、設立20周年を契機と致しまして、関係の皆様方の英知と熱意のもとに事業が展開され、その活動を通じてセンター事業がさらに発展されることを心から祈念いたしますとともに、会員並びに役員員の皆様方のご健康とご活躍を心からお祈りいたします。お祝いの言葉といたします。

1986

1986 (昭和61年)

- 8.20 社団法人萩・長門・三隅地区広域
シルバー人材センター設立
- 設立総会 (新市歴史文化センターに於て)
- 9. 1 萩事務所 (萩和支所) 長門・三隅支所を開設
- 9. 6 社団法人の設立許可書が山口県庁から
交付される
- 9.10 法人としての登記完了



設立総会で幹事理事長挨拶



設立総会風景



設立総会で会員の活発な意見発表



設立総会受付風景

1987

1987 (昭和62年)

- 9.24 説明総会をサンライフ萩体育館で開催
会報「いせいでい」創刊号発行
- 10. 5 サンライフ萩の建物の竣工に伴い
主たる事務所をサンライフ萩内に移転
就業協会の募集
地区別会員集會、就業相談所集會を隔べ
15回実施



サンライフ萩に事務所を移遷



サンライフ萩に事務所移転



就業協会の集會



田原山「いせいでいの広場」での就業風景

1988

1988 (昭和63年)

- 10. 18 会員親睦旅行第1区 (園野実穂等)
- 11. 6~7 就業関係会員研修会
職能向上、技能関係会員研修会開設



事務講習会



観光区内



作業講習会

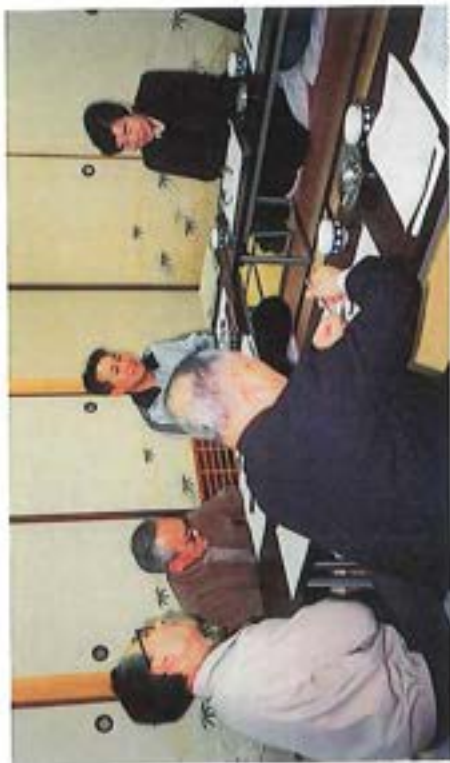
1989

1989 (昭和64年1月1~7日・平成元年)

- 地区会員集會
- 地区内の会員の相互親睦と道徳を
期にするための地区に分けて開催
- 地区世話人集會 年2回実施
- 8. 2 夏まつり「ヨイショコソコ祭り」に参加
事務所にコンピューター導入



地区世話人集會



地区会員集會 (江内地区)



夏まつり「ヨイショコソコ祭り」に参加



会員作品展 (普及啓発活動)



事務所にコンピューター導入

1990

1990 (平成2年)

- 6.27 広域会員合同研修会で池本整形外科医務院から
高齢者の健康管理について講演を受ける
- 6 「月刊シルバー人材センター」6月号で当広域シルバー
人材センターの運営状況が全面に紹介された
- 会報「健康情報」を「いまだ青春」とし1月と10月に
発行することにした
- いせがし就業の基本となる「安全のしおり」を配付
- 12.7 社団法人・長門・三隅地区広域シルバー人材センター
設立5周年記念事業実行委員会発足



新築室での就業



設立5周年記念事業実行委員会会議



普及車移動でのチャリン配り



ふるさと祭り会場での就業

1991

1991 (平成3年)

- 4.1 会費の改定 1,000円→1,200円
- 5.27 第5回通常総会
設立5周年記念式典、祝賀会開催(長 萩本陣)
- 7.2~31 ワープロ技能講習会
- 7.18 社団法人・長門・三隅地区広域シルバー人材
9.21 センターの分割、再編に伴う運営協議会開催
11.1



設立5周年記念式典 小池市長祝詞



設立5周年記念式典 北野市長祝詞



設立5周年記念式典
井町理事長祝詞



ワープロ講習会始まる



設立5周年記念祝賀会

1992

1992 (平成4年)

再建に伴う会議

- 1. 17 新地区役員会議
- 2. 25 阿武町・むつみ村設立発起人会議

シルバー人材センター事業説明会

- 1. 4 阿武町赤古・宇田地区
- 1. 9 阿武町福沢地区
- 2. 3 むつみ村古部・高保地区

3. 25 分府・再建に関する協定書の締結

4. 1 社団法人新広域シルバー人材センター発足

5. 26 再建(保・阿武・むつみ)による第1回通常総会

各種世話人会議(余部地区・夏まつり・ふるさとまつり出席・河川清掃活動)



社団法人新広域シルバー人材センター
平成4年3月
臨時総会

分府再建に関する臨時総会



新広域シルバー人材センター
平成4年度第1回通常総会



李ルメ開成区復興(阿武)



河川清掃活動



阿武町内所社

1993

1993 (平成5年)

4. 11 交通安全講習会(新田町小学校)
会員就労状況視察(新田町・田原山地区の広域)

9 万博研究事業開始式

10 実用書道講習会

12



夏休みの安全講習



万博研究事業開始式



実用書道講習会開成式



万博研究者講習会



実用書道講習会実施風景

1994

1994 (平成6年)

坂市リサイクルセンターで果物につく
むつみ村リサイクルセンターで分別作業開始

1. 4 歌楽文化教室の活動開始
(園芸クラブ・カラオケクラブ・囲碁クラブ)

10. 9 美しい町民市民大会で表彰される



坂市リサイクルセンターで設置



むつみ村リサイクルセンターで分別作業



歌楽文化教室 (園芸クラブ)



歌楽文化教室 (カラオケクラブ)



美しい町民市民大会で表彰される



歌楽文化教室 (囲碁クラブ)

1995

1995 (平成7年)

2. 28 新職研修設置、各社初代会

3. 23 評定・会場設置・案内・観光地清掃

観光ガイド・万博誘客・野外出遊施設管理

業務・福祉推進活動・駐車場管理

4 阿波町リサイクルセンターで分別業務開始



草取り作業



新職研修会議



阿波町社会福祉協議会



美しい町民市民大会に参加



阿波町リサイクルセンターで分別作業

1996

1996 (平成8年)

- 3. 28 ワークブラザが現在地 (町田山田4253番地) に完成し事務所を移転する
- 4. 2 ワークブラザの事務所が催される作業所の設置により養・障子張り業務が本格化する
- 12 門松楽団開始
地区世話人会議 香樹祥団会議



ワークブラザ様 完成

祝 ワークブラザ事務所

町田山田4253番地



ワークブラザ様 開所式で理事委員長挨拶

祝 ワークブラザ事務所

町田山田4253番地



ワークブラザ様 開所式で新市長の祝辞



門松楽団開始



作業所での養・障子張り講習会

1997

1997 (平成9年)

- 5. 14 } 地区世話人会議
- 9. 3 } 安全委員会
- 6. 19 } 職群協議会議
- 9. 3 } 職群協議会議
- 11. 8 } 職群協議会議
- 10. 13 観光施設管理及び案内業務開始
- 10. 23 秋広域シルバー人材センター連絡協議会
- 12. 12 野田講習会 (相模山公園)



野田講習会



野田講習会 (つづみ)

山口

山口の歴史は古く、古くは「山口」の地名が記述されている。この地名は、古くは「山ノ口」として知られていた。これは、山がちな地形から由来している。山口は、古くは「山ノ口」として知られていた。これは、山がちな地形から由来している。

山口の歴史は古く、古くは「山口」の地名が記述されている。この地名は、古くは「山ノ口」として知られていた。これは、山がちな地形から由来している。山口は、古くは「山ノ口」として知られていた。これは、山がちな地形から由来している。

歴史や人物像など解説

観光施設管理、案内業務が新市長に任せられる

1998

1998 (平成10年)

- 2. 12 就業機会拡大専門員認定
- 2. 14 料理講習会 (都市保健センター)
- 2. 14 料理講習会 (岡部町高齢者センター)
- 3. 23 料理講習会 (むつみ村国民研修所)
- 7. 29 交通安全講習会 (新藤新電交通課)
- 12 種むでり作り開始



県民も参加しての料理講習会



種むでり作り農務



就業機会拡大専門員



交通安全講習会



高齢者料理講習会 (むつみ)

1999

1999 (平成11年)

- 4. 1 事業費を5%から5.8%に改定
理事会に専門部会発足
- 6. 28 第1回総務部会・事業部会委員 活動方針協議
- 7. 7 第1回部会長会議
- 8. 23 第1回介護講習会
福祉事業援助委員会
月刊シルバー記者採集取材
- 10. 7 第2回事業部会会議 (就業機会の具体的方策)
- 11. 1 第2回総務部会会議 (財政運営の見直しについて)



芝刈機講習会



事業部会講習会



介護講習会



月刊シルバー記者取材のため業務



トリマー認定講習会

2000

2000 (平成12年)

- 5.29 新幹会発足
- 7.18 親睦部の換・牌子張り部、
福祉・家事運動部を再編
- 理事会専門部会
- 8.10 第1回総務部会、事業部会会議
- 9.14 第2回事業部会会議
- 9.26 第2回総務部会会議



新幹会初代部員



総務部旅行



シルバードフェスティバルにて出席



総会でのアトラクション (牌羽クラブ)

2001

2001 (平成13年)

- 5.29 13年度総会
シルバード人材センター発足15周年の
記念事業で委員会員・協力企業を表彰
- パソコン講習開始
- 手芸クラブが発足し作品制作開始
- 担当理事制度発足、活動開始 (広報・教養・安全・福祉部等活動)



パソコン講習会



15周年記念事業で委員会員表彰



理事部長講習会



手芸クラブの
作品制作風景



小島さんと総りで手芸クラブ会員様

2002

2002 (平成14年)

- 1. 5 安全委員会
車の運転業務の増加に伴い、県の交通安全学習館での体験講習会に参加
- 広報委員会らら組 福祉事業推進委員会
就業調査会第4回開催
- 8. 1 「ほほえみ情報」第1号発行
- 10. 4 観光局が秋おもてなし大賞を受賞
(駅ヶーブルネットワーク、秋おもてなし推進協議会主催)
- 11. 26 竹組作り講習会



ほほえみ情報第1号



安全運動講習
(保原会主催)



観光局が秋おもてなし大賞を受賞



竹組作り講習会



東夷り講習会

2003

2003 (平成15年)

- 1. 3 認定業務に防災技能者育成設置
- 7. 11 山口県シルバー人材センター連合会主催の安全就業大会で山本達雄安全委員長が体験発表
- 9. 23 秋田自動車学校で安全運転講習会
- 10. 3 元全シ協参事竹村弘氏の特別講演会(サンライフ棟)
- 12 手芸クラブの作品「雫の花」が月刊シルバー12月号の表紙を飾る



防災技能者養成講習



安全就業大会で安全委員長の体験発表



元全シ協参事竹村弘氏の特別講演



秋田自動車学校で安全運転講習



月刊シルバーの表紙を飾る
手芸クラブ作品

2004

2004 (平成16年)

- 2. 4 市町村合併に伴う須佐・田万川広域シルバークラブセンターとの統合協議会結成
- 7. 8 山口県シルバークラブセンター連合会主催の安全就業大会で新広域シルバークラブセンターが安全就業優良センターとして表彰を受ける
- 9. 1 新広域シルバークラブセンターと須佐・田万川広域シルバークラブセンターとの統合に関する協定書に調印
観光船の就航に伴い船頭業務に就任



安全就業大会で優良センターとして表彰を受ける



統合協定書調印式



観光船業務開始



観光船の船頭業務に就く

2005

2005 (平成17年)

- 2. 15 新広域シルバークラブセンターと須佐・田万川広域シルバークラブセンターとの統合に関する案件について臨時総会を開催
- 4. 1 新広域シルバークラブセンターと須佐・田万川広域シルバークラブセンターが統合し新広域シルバークラブセンターが誕生する
- 5. 12 理事会に監事部会・事業部会を設置
- 9. 29 9月理事会で平成18年9月に設立20周年記念式典を開催する
記念式典・記念誌の編集部会を設置し準備を進めることを決定
- 12 理事長の任期に対し各部会より各申請を提出



須佐・田万川事務所



普及啓発活動、会員募集



臨時総会



安全就業活動



普及啓発活動、臨時総会

須佐・田万川統合までのあゆみ

1996

1996 (平成8年)

- 10. 1 須佐町高齢者人材活用センター設立



設立者 小川健会長

1997

1997 (平成9年)

- 4. 22 第1回運営総会



須佐石 巻のヒゲ芝植

1998

1998 (平成10年)

- 5. 6 第2回運営総会 (役員改選)



大塚島研修施設

1999

1999 (平成11年)

- 4. 1 須佐町シルバー人材センターに
名称変更
- 5. 20 第3回運営総会



須佐町ふるさとまつり出展



第3回運営総会

2000

2000 (平成12年)

- 5. 17 田万川設立に伴い須佐・田万川広域シルバー人材センターに名称変更
第4回運営総会 (広域化による役員改選)
- 5 就業機会創出専門員1名配置
- 8. 8 県連合会安全/パトロール実施
- 10 県連合会経歴交流大会で発表



法人設立総会



山口きらら博見学



須佐町研修センター



全日本福祉協会の



第4回運営総会

2001

2001 (平成13年)

- 5.11 法人認可に伴う設立総会・第1回通常総会
- 6. 8 法人認可に伴い社団法人須佐・田万川広域シルバニア人材センターに名称変更
- 12.20 全シブ指導訪問

2002

2002 (平成14年)

- 5.14 第2回通常総会



第1回地域協議会

2003

2003 (平成15年)

- 5.14 第3回通常総会
- 7. 2 第1回地域協議会
- 9.27 SSO協議会招来式



玉葱収穫作業

2004

2004 (平成16年)

- 2. 4 市町村合併に伴う新広域シルバニア人材センターとの統合協議会始まる
- 4. 7 SSO協議会ルート191セーフティロードキャンペーン(特石海岸)
- 5.13 第4回通常総会
- 7.22 地域協議会(須佐・須佐・小川・江崎)
- 9. 1 須佐・田万川広域シルバニア人材センターと新広域シルバニア人材センターとの統合に関する協定書に調印
- 12.21 山口県職工労働部実地検査



SSOリーダー研修会



地域協議

2005

2005 (平成17年)

- 2.10 社団法人須佐・田万川広域シルバニア人材センター解散総会
- 4. 1 須佐・田万川広域シルバニア人材センターと新広域シルバニア人材センターが統合し新広域シルバニア人材センターが誕生する



解散総会

親睦会・同好会活動

同好会活動

共通の趣味を持つものが集まって活動している。特に演芸クラブは“さくら茶館”として福祉施設等の訪問等で活躍している。また、手芸クラブは独自事業としても、ふるさと祭り等で販売活動も行っている。



手芸クラブ「ももらの会」・須佐



手芸クラブ「すみれ会」・須佐



手芸クラブ・田乃川



演芸クラブ



演芸クラブ



カラオケクラブ



工芸クラブ・須佐



演芸クラブ「ももらの会」



鹿児島沖宮参拝

親睦旅行



鳥取県巡視



徳島大社



楽しい夕食

発注者の声



介護老人保健施設
徳寿園 施設長

多田 稔治

設立20周年のお祝い

社団法人救急車シルバ一人材センター設立20周年、誠におめでとございませう。心からお祝い申し上げます。

私も医療法人社団徳寿園生命介護施設（徳寿園）では通所リハビリテーションでこれまでお祝いしています。介護介護・要介護状態の利用者の方々の対応を平成10年10月よりお祝い、激しいです。毎朝5時より夕方18時より各2時間ずつの業務ですが、こちらが期待している以上に、安全に、優しく、丁寧に、適切な対応といふ非常に重要な役割を担っていただいております。所望された方々の行き届いた仕事ぶりには全く、頭が下がります。高齢者の方々、これからの豊かな経験と能力を生かして健康で積極的に社会参加する、これがこれからの日本の高齢化社会の理想的な姿ではないかと思われ、まさにこれを実現されているのがシルバ一人材センターの目標ではないでしょうか。今後とも、貴園はもとより私どもこれからの方々の人生の目標としてもよろしくお祝い申し上げます。

救急車シルバ一人材センターの益々のご発展と皆様方のご健康とご多幸を心からお祈り致します。



株式会社フジ
代表取締役

吉岡 典厚

感謝の一言

（社）救急車シルバ一人材センター20周年を迎えられ、心よりお喜び申し上げます。

人材センタースタッフ及び会員の皆様には常日頃からお世話になっており、今ではなくてはならない存在です。これもひとえに20年間のノウハウと、たゆまぬ努力がとげるところでございます。

私共の会社は歴史も社員も同じように若い会社です。その中において、シルバ一人材センターの情報は私達の助けになっておりました。遠く地方という言葉を再認識させていただくことができました。感謝の一言につきます。

シルバ一人材センターの目標の多くを達成して、働くことを楽しんでおられるんだなと感心しており、それをどうやって社員に伝えるかが私の仕事だと感じている次第です。また仕事以外の場においても、いろいろなところで声を掛けて頂き感謝だけでなく部下の励みになります。今までは教えてもらう事ばかりでしたが、企業として出来る事、しなければならぬ事を思考を促しながら、人材センタースタッフ及び会員の皆様と共に進んでいければと思います。

この素晴らしい出会いを大切にしながら、シルバ一人材センターのように20周年を迎える事が出来るように頑張ります。

感謝申し上げますと共に、これからも変わらぬご支援を賜るよう、今後とも長いお付き合いをいただこうと思っております。

20周年を節目として、シルバ一人材センターの今後益々の発展を祈念すると共に、会員皆様のご健康をお祈り申し上げます。

生きがい創りを大切に

シルバ一人材センターの設立20周年、まことにめでとございませう。シルバ一人材センターへのお付き合いは、平成12年4月の救急車協会設立（がやせ）の開始に伴い、ディサービスへの参画、配属サービスの提供、施設の整備などを目的に始まったのが始まりでした。あれから、8年が経ちましたが、今では、当事業団の運営にはシルバ一人材センターの貴重な人材は欠かせない存在となっております。

会員の方は、経験豊富な方が多く、心配していた配属サービスの立ち上げでは、いろいろなお意見をいただくことができました。ご利用者様一人ひとりの安否確認と要望に沿った配属をし、不在時の対応にもせぬ細かく対応していただいていた。平成17年度からは、配属サービスが従来事業へ委託されたため、当法人としての事業は薄くなりましたが、その間、大きな変更もなく順事に終了することができました。

私が、配属サービスの業務委託をおこなっていたことは、会員の方がご利用者様や職員とのコミュニケーションを取り、自分なりの考えを持って、業務を遂行し、自分たちの「存在価値」あるいは「生きがい」を感じておられたことです。

私は、シルバ一人材センターの目的は、会員の方々の「健康の確保の確保」というだけではなく、会員の方へ「生きがい」を与えることだと思っています。これから、団体の世代の方が多く思われますが、この方たちは、まだまだ、働く意欲も強く、能力も高い方達だと思います。シルバ一人材センターが中心となり、この方達と積極的に取り組むサービスを創り、会員の方々の「生きがい」を益々、増やしていくことを願っています。

最後に申し上げますが、シルバ一人材センターが、これから益々ご活躍されることを心から期待しています。



社会福祉法人
徳寿園社会福祉事業団
事務局長

池田 寿昭



株式会社
代表取締役

杉山 圭佑

設立20周年を祝して

社団法人救急車シルバ一人材センターが、設立20周年を迎えられ心よりお祝いを申し上げます。

平時は、当社にも生活経験豊富で、各分野での技術を生かした方々を人材運用に御支援頂き、また会員の方々の気持ちよく就業いただき、御活躍下さっていますことに、心より感謝いたします。

節日も合併により広大な環境となり、高齢者は増加の一途を辿っている中、シルバ一人材センターの役割は、益々重たし重要になってくるのが考えられます。このためにも、平素会員の方々の第二の人生の生きがいのために、健全で明るく活気のあるまちづくり参加の機会も多く、皆様の生き生きとした活躍の場が益々増えてくるものと思われたいです。

今後当社といたしましても、シルバ一人材センターと会員の皆様との協力を怠りたいたしません。徳寿園の一助として努力してまいりたいと、考えております。

終わりにシルバ一人材センターの益々の発展と会員の皆様の一層の健康を祈念いたしまして、お祝いの言葉を申し上げます。

Messina



日本緑化株式会社
代表取締役社長

松村 勇

お祝いのごとば

設立20周年をお祝いとおめでたうございます。
少子高齢化が社会問題となる中で、昨今の高齢者は単に歳を重ねるだけでなく体力・技術力・能力共にまたまた社会に貢献出来る環境にありたい。

現在、企業の高齢者も60歳から65歳に延長するように指導がなされている状況ですが、シルバー人材は健全です。

当社としては、早くからシルバー人材の活用に着目し、若いも地域社会に貢献出来る人材として、観光事業を営む上で高齢者に適した場所に多くのシルバー人材を起用しており、お客さまからも好評を得ております。

これからの高齢者の生きがいと活動の場を提供する機関として、新理事長のもとで新しい発想を駆使して地域社会に必要とされ、なくてはならないものとして信頼されるシルバー人材センターとなり、更に発展し発展して行くことを期待してお祝いのごとばとします。



みんぱ園芸部
施設長

久保満知子

お祝いのごとば

この度は、社団法人新広域シルバー人材センター様が設立20周年をお祝い申し上げますこととお祝い申し上げます。

私も、貴センターに通園/びの運動をお願ひするようになって早いもので、もう17年になります。その間たくさんの方に、本園に気持ちよく、安全に通園/びの運動をしていただきましたこと心より感謝申し上げます。

当施設は、障がいのあるお子どもが療育を受けるために通園/びを重んじて運営を行っていますが、私どものような通園施設は山口県内にも4箇所しかなく、通って来られるお子ども、萩市・長門市・阿武町と大変広域から通園して来られます。

今では1日3台のバスを3方向（鹿門・津佐・吉原方面）に定らせて、毎日3人の方に通園をお願ひしており、当施設にはシルバー人材センターのマンパワーは欠かせない存在です。

障がいのあるお子どもを乗せて運ばれるため身分証を使われているはずですが、どなたも、当園の運営職員が安心して対応できるように配慮していただき、子どもたちのことをよく理解して下さるので本当にありがたうと思っています。

ご自分のお孫さんのように可愛がってくださる運転手さんが子ども達は大好きです。これからもどうぞよろしくお願ひ致します。

最後になりましたが、今後の新広域シルバー人材センター様のますますのご発展を祈念し、お祝いのごとばとさせていただきます。



新広域シルバー人材センター
株式会社
代表取締役社長

田村 充正

ゴルフ場とシルバー人材センター

社団法人新広域シルバー人材センター設立20周年と伺いました。この20年には元号が昭和から平成に変わり、その発展に携わった方々のご協力、ご苦労、ご奮闘が感じられます。

萩・石見カントリー倶楽部は平成17年3月からスタート致しましたが、前年度ある石見広域ゴルフ倶楽部の時代より貴人材センターのお世話になっているとお聞きしています。ご縁あって私が当ゴルフ場を運営することになり、引き続きお世話になっており感謝申し上げます。

シルバー人材センターは全国的な制度として定着していると考えています。私は、「人材」と改称すべきかと思っています。お世話になって1年余りですが、センターから派遣していただく人材は私どもの期待を上回るものでした。その経験、知識、丁寧な仕事は朝晩の従業員が学ぶべき多くのことを教えてくれます。

これからの時代、人々の価値観はますますスピードを早めて変化していくでしょう。これまでの生物の歴史をみると、生き残り発展した生物は「強い」「大きい」ではなく「変化に対応する」「経験に基づき知識がある」がキーワードとなっています。

この事実を思うとき、シルバー人材センターの可能性は「地域」を変え、「日本」を変え、「世界」を変え、といっても過言でないと思えます。

ゴルフ場は、「手入れの行き届いた愛こそ命」の精神であります。芝生は生き物であり、その土地の気候に合わせて手入れがなされれば、生き生きとします。一般的な芝生だけではうまくいきませんが、センターから派遣して頂く方々は長年この田舎/川/山で生活されてこられた方々で気候風土を熟知され、かつ、地域にたいする愛情を一人一個お持ちの方々であり、誰が子を育てるように対応していただいております。

萩・石見カントリー倶楽部は、ゴルフという素晴らしいスポーツを媒体として地域の人の憩いの場として発展し、併せて、地域の皆様に貢献できる場を目指しております。

これからの時代を思うとき、新広域シルバー人材（人財）センターの皆さんの発展を願うことを得ません。

日々、その発展に貢献されておられる皆様のご多幸を心より祈念しております。

Messia

発展をめざして

親睦会シルバード人材センター設立20周年、誠にありがとうございました。

シルバード人材センターに入会して既に10数年を経過致しました。入会当初は事務局は駅南中央公民館敷地内にありましたが、市の道開拓工事により現在地に移転してきました。また、組織の改革により長年・三島のシルバード人材センターは独立し、新広域シルバード人材センターは親睦会同好会・むつみ村の1部1村となりましたが現況は現在、田万川との統合により一層広域となった新タシルバード人材センター事業の発展が期待されております。

私は道開拓先業から入会を懇請されて入会しました。以来、歴代の理事長・事務局員に指導・啓蒙を受け、又先輩や後輩に刺激され毎年毎年と、経歴を認めながら年を重ねました。親睦、会費回収、市報田等会報において指導を頂戴、その場その場を生懸命に努めて参りました。

現在は駅前介護福祉の「かがやき」で施設内の樹木、花びんの整備をお手伝いさせて頂いております。又一方で市内各寺のお墓掃除のお掃除費のお手伝いさせて頂いております。シルバード人材センターの親睦会である親睦会に入会して楽しく、年1回の新年旅行を楽しんでおります。又親睦会の内部組織である親睦クラブと親睦クラブ、親睦クラブ（せくらぶ）に入会して同好の方達と遊ばせ去り行く人生を楽しんでいこうと願っております。私は多くの先輩後輩に恵まれたことを深く感謝致しております。会員一層理事部の活動の事も、共善・共助、新タシルバード人材センター事業を発展させていきたいと思います。



親睦会会員
伊藤 節男



田万川地区会員
大津 修巳

シルバード雑感

シルバード人材センターの会員になって、4年目を迎えたばかりの新人です。言葉を離れて40数年ぶり出戻りの地にとって、吉里が幸ひにも様変わりしており、昔住み込んだ町年功に、改めて感動に入った？感すらあります。

田万川に遊びまくる、山・川・海そして田舎そこには人と人との繋がり、生活の豊かさも良きにつけ、思しきにつけ40数年の経過と程に変わったのでしよう。子供の頃の懐かしさ思い出が湧き出た。そんな頃、某からシルバード人材センターなる会を介されて入会致しました。

親睦会シルバード人材センター発足20周年との際、会費やらおめでとうございまして申し上げれます。このシルバード人材センターなる会を、20年の水色に寄り寄り、更迭とてられた方々までシルバード一貫会と思っております。

ひと、シルバードなるもの由来はと聞かすに、…そこで雑感であるが、その一つに会員の方々に、オツムが白く顔色、所謂シルバードに輝く方が多く、シルバードと名付けられたのでは？或いは人生経験が、若いも、無いも、無いも、幸いにも痛み分けに来られた方々、またはいにしけなる達人の集まりから、シルバードなる由縁か？はた又親睦会だっってご紹介に覚えのある親睦の情も生いだし感謝のまじりかと？…思っております。さらばこの名前の、ゴルト御功業であつたら、親睦上ではこれ以上は無いと言つ事か

なリオリンピックの金、銀で言うところの親睦でこの上がなく落ちるのみか、…人材センターは、シルバード親睦会の上、仕事の質、人間性から人材の活躍といえらると思っております。人と人の情、心と心の通、シルバード人材センターは少子高齢化の年の中において、町の中心的存在をなし、町の活力になっていいると思ふ、私もこの組織の輪の中に入り、そして会員の和の中に入れたことを嬉しく思ひ、シルバードの親睦と共々、シルバードの本場の出来を知らない方々が、勇が湧いて聞いても、ガンバロー！シルバード！

センターに入会して

設立20周年おめでとうございまして。シルバード人材センターに入会し5年になりました。初めはシルバード人材センターの理念である「共善・共助」等シルバード人材センターで用いられる言葉の意味がわからず戸惑いしましたが、今では少しづつシルバード人材センターの仕事も理解しつつあります。入会時「介護保険導入」時だったため、ホームヘルパーをしていただくお出願になりました。介護保険導入後、施設等訪問したシルバード人材センターのPRをして「介護保険で対応出来れば、支援を、シルバード人材センターの仕事としてまわして下さい」とお願いしました。今更には介護をしておりませんが、ヘルパーの時には仕事の経験が有り出来なかつた事も今では、同僚のゆるりゆるりの言葉にこたえられ、期待がすきりして得る事が出来ます。今まで通ってこられた先輩の会費を返すに困らない仕事をして行こうと思っております。シルバード人材センターは仕事ばかりではありません。介護、調理、手芸、その他色々な講習を企画されています。時々参加してはいますが、皆さん熱心に受講され、又、和気あいあいな教室です。

私自身活動していく中で、お互いに助まし合い、健康を保持しながら会員同士を携え合って協力していきたいと思います。自分の役割を果たしていきたく思っております。

シルバードで学んだ人生

同好会「団の親」がオープンしたのは平成4年の暮でした。当初はものずからしだもありよく買物に行っていました。その「団の親」の一角に温泉センターが出来つつあり、春を通る度に出来具合を朝日で見ながら「朝陽園にでも置てもらいたいね…」と話し合っていました。

そうこうするうちにシルバード人材センターの集まりがあり、シルバード人材センターの存在が知らなかつた私でしたが、年をとっても置くことができる、また家庭の中でこなせる仕事シルバード人材センターでお役に立てられるならばと、好奇心も手伝って同好会に行き、これなら私でも出来そうと早速入会の申請書を書きつけてきました。書類がより少し遅れて「日本温泉センター同好会」が置かれて、一方シルバード人材センターも立ち上がり、その初代所長さんのご協力もあって温泉の近くに住む私を含む白人の会員が温泉の施設管理として就業することになりました。当初、朝陽園にでもと話し合っていたことが実現したのです。以後、温泉にも専ら朝陽園、12年間働かせていただきました。ありがたいことだと思ひます。

しかし、当初、働けるまでが結構大変でした。それまで家庭の中心が知らなかつたが、様々な機械操作ができるだろうか、突撃の応対ができるだろうかなど、不安が一杯でした。また炊具、小学生、大人と利金の違いを同時に計算しなければならぬ、朝日した顔を覚えるからの対応でした。

思い出せば昔がありました。昔は体力の衰え、腰痛の悪化、「背が突っっている」と思われ、「背がゆるい」と苦情を言われ、また温泉でのお客の介助など家庭の中では味わえない生活経験をいっぱいさせていただきました。働くことの素晴らしさを感じ、人に対する愛しさ、笑顔がどれだけ人を心地よくさせるか、人間としてとても大事なことを学ばせて頂きました。ありがたうございまして。

Message



1 須賀地区会員

山下 季和

我がシルバー人生

1999年に須賀地区シルバー人材センター初代会長の勤めで入会した。当時は僕も高く個人の情熱を持って活動し、水曜日の5体を経費の足しとして提供した。設立当時会長も一生懸命で体中サロソバスにだらけで皆と一緒に頑張った。無理もない、会長は銀行員さんよりたから、少人数で頑張ってやっていた内に会員も増え行政も注目するようになり補助金も以前より多くなり感懐も増し須賀地区の皆さんにも認めて頂けるようになり、今日田舎の老舗化においては聞くてはならない地だと思ふ。老人の家にいき本場に喜ばれた時、誰分漢も無難の喜びを感じ体の重れも思はず。何時までも元気な毎日を過ごすのが私の理想だ。だが年齢は毎年取る。これではいつか体を壊す時が来ると思っていたが、ある友人から健康の仕事があるが人手が足りない、貴方も酒好きだから休日を休んで勤めてみてはどうかと持ち掛けられ即実行に移し今年で8年になる。又食べ物も自己満足で余りない。食べべても野菜がめめ月3部程度。魚はよく食べ、中でも小アジのセゴシ、小魚を骨ごとよく噛んで食べる。記憶で今日まで食べた魚は1本も無い。全部自産だ。それと野菜はレタス、玉ネボのスライスにパセリにゴマだけで交ぜて食べ、玉子は余り食べない。動物は鶏卵。若い頃はビールも飲んでいたのでプリン体が多く、尿酸が高くなるので駄目。清酒は後に減って駄目。焼酎も強いのはアゲを減らすから駄目。牛乳と味噌汁は朝夕に。これが私の健康法だ。皆さんも高齢者だから体に気を付けて世のため、他人のため、家族のため、自分の為についてまでも元気で頑張ろう。

20周年記念感謝状・表彰状贈呈者

(順不同・敬称略)

感謝状贈呈者

有限会社秋田商店
 坂本株式会社
 株式会社リング
 興和産業株式会社

表彰状贈呈者

会員 (18名)

小坂 亮
 柴田 モヨ
 柴田 明
 西山 聡
 伊藤 郎男
 栗田 梅人
 窪田 千代子
 杉山 孝子
 阿武 新吉
 平野 吉朗
 山本 ミドリ
 秋丸 一枝
 宮木 巧
 水津 初江
 大賀 真治
 鮎川 武夫
 井上 正美
 黒谷 道男

役員 (8名)

大谷 長太郎
 三好 幸男
 中野 了佑
 阿武 千日子
 木村 進
 岡 正和
 藤井 康夫
 伊藤 勇

職員 (2名)

末益 肇助
 橋 雅子

Message



第1号



第2号



第3号



第4号



第5号



第6号



第7号



第8号



第9号



第10号



第11号



第12号



第13号



第14号



第15号



第16号



第17号



第18号



第19号



第20号



第21号



第22号



第23号



第24号



第25号



第26号



第27号



第28号



第29号



第30号



第31号



第32号



第33号



第34号



第35号



第36号



第37号

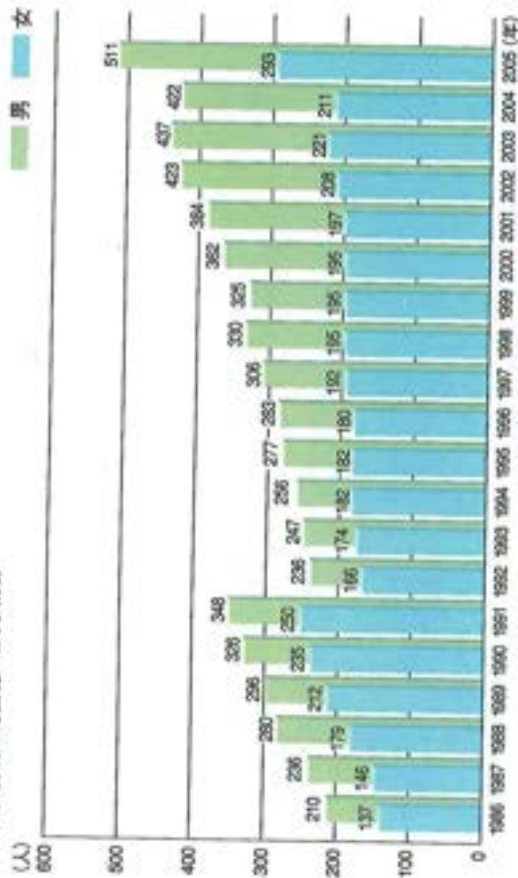


第38号

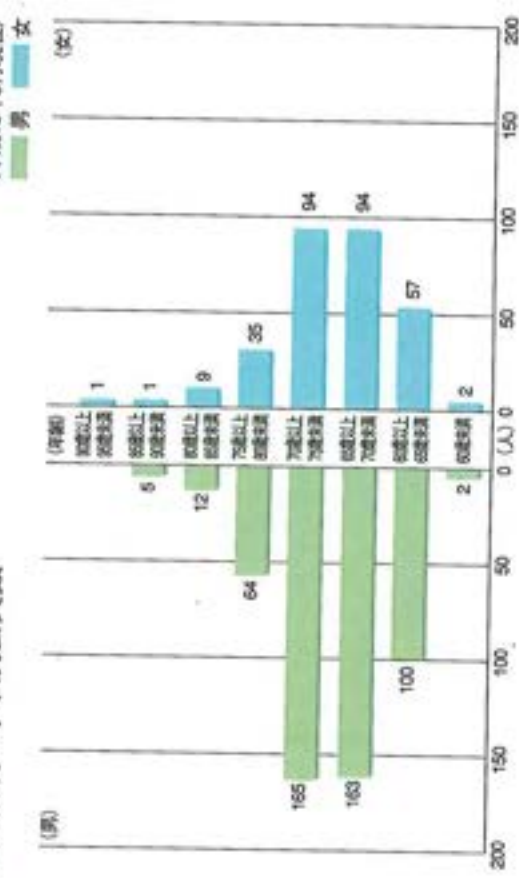


第39号

会員数の推移(男女別)



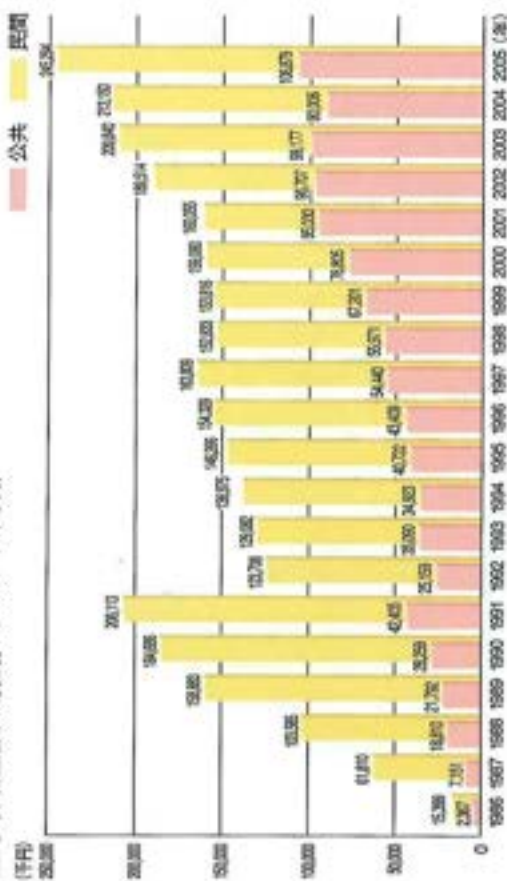
男女別・年令別会員数



受注件数の推移(公共・民間別)

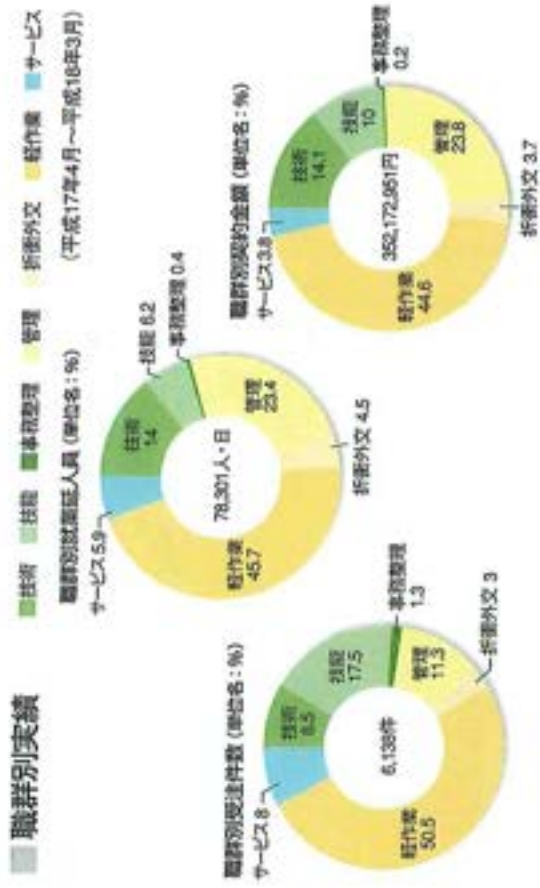


契約金額の推移(公共・民間別)

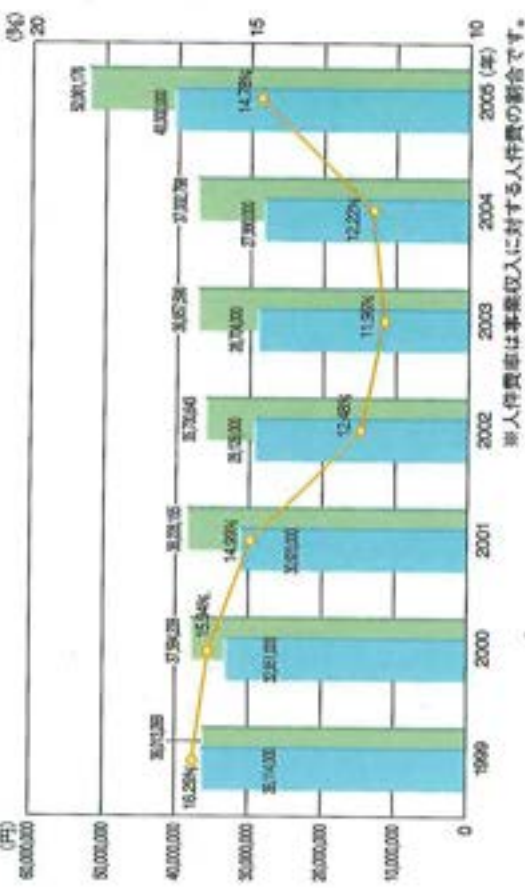


DATA FILE

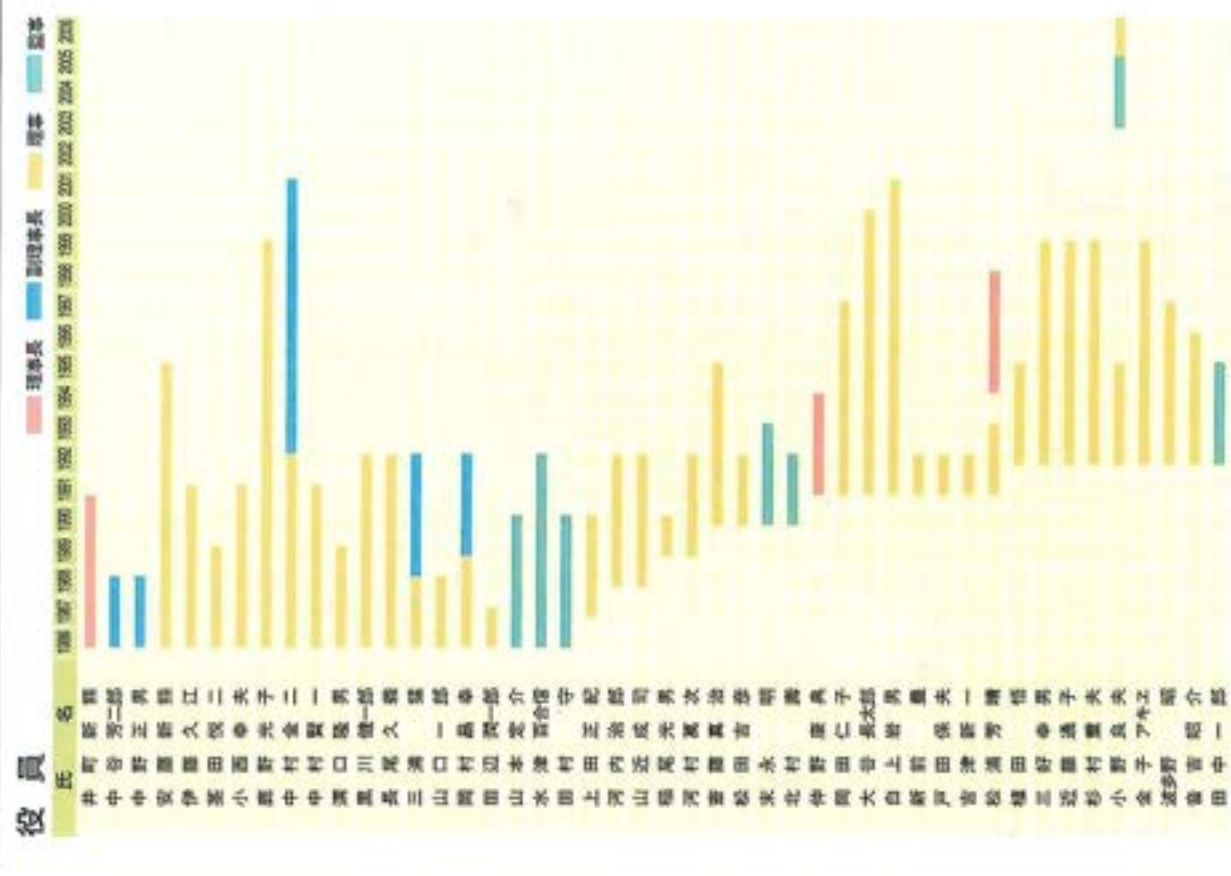
職群別実績



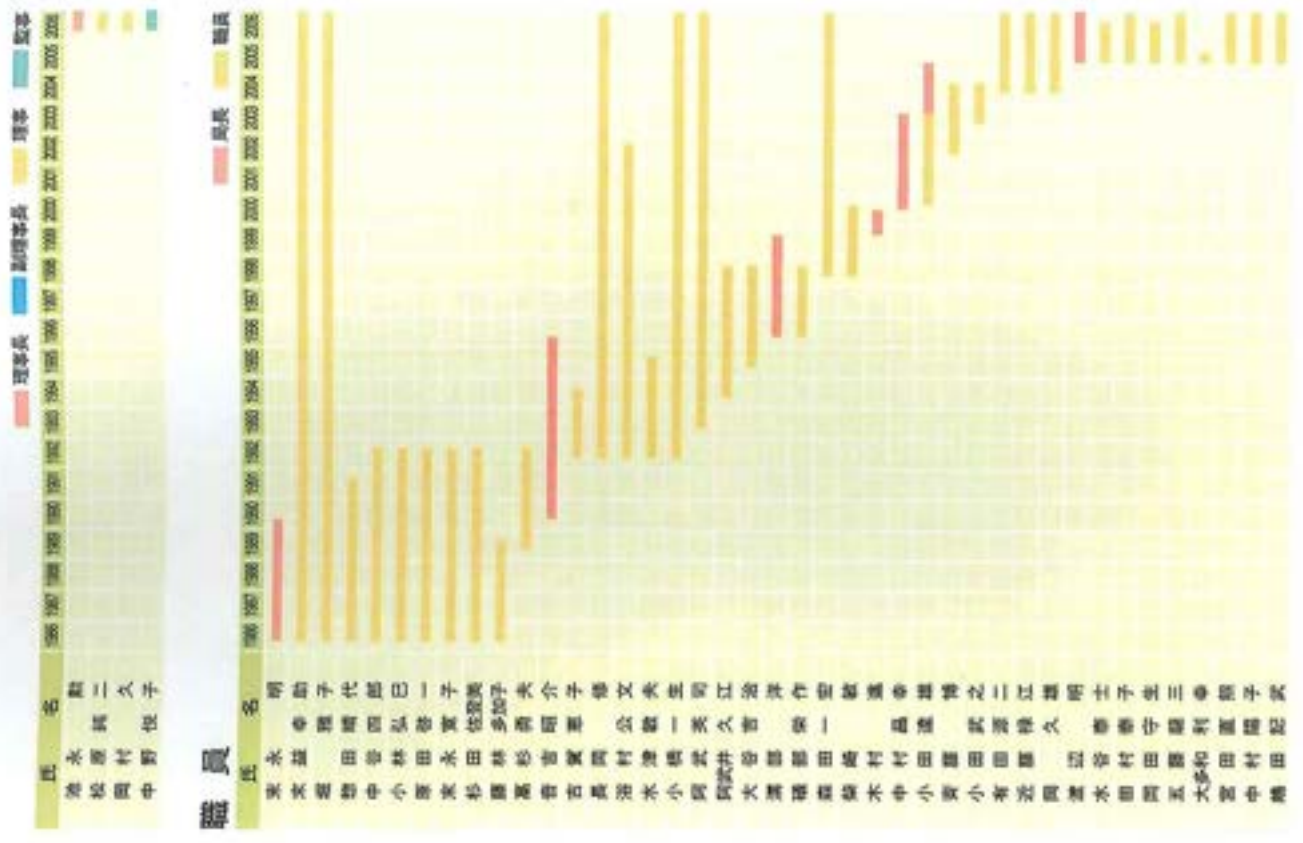
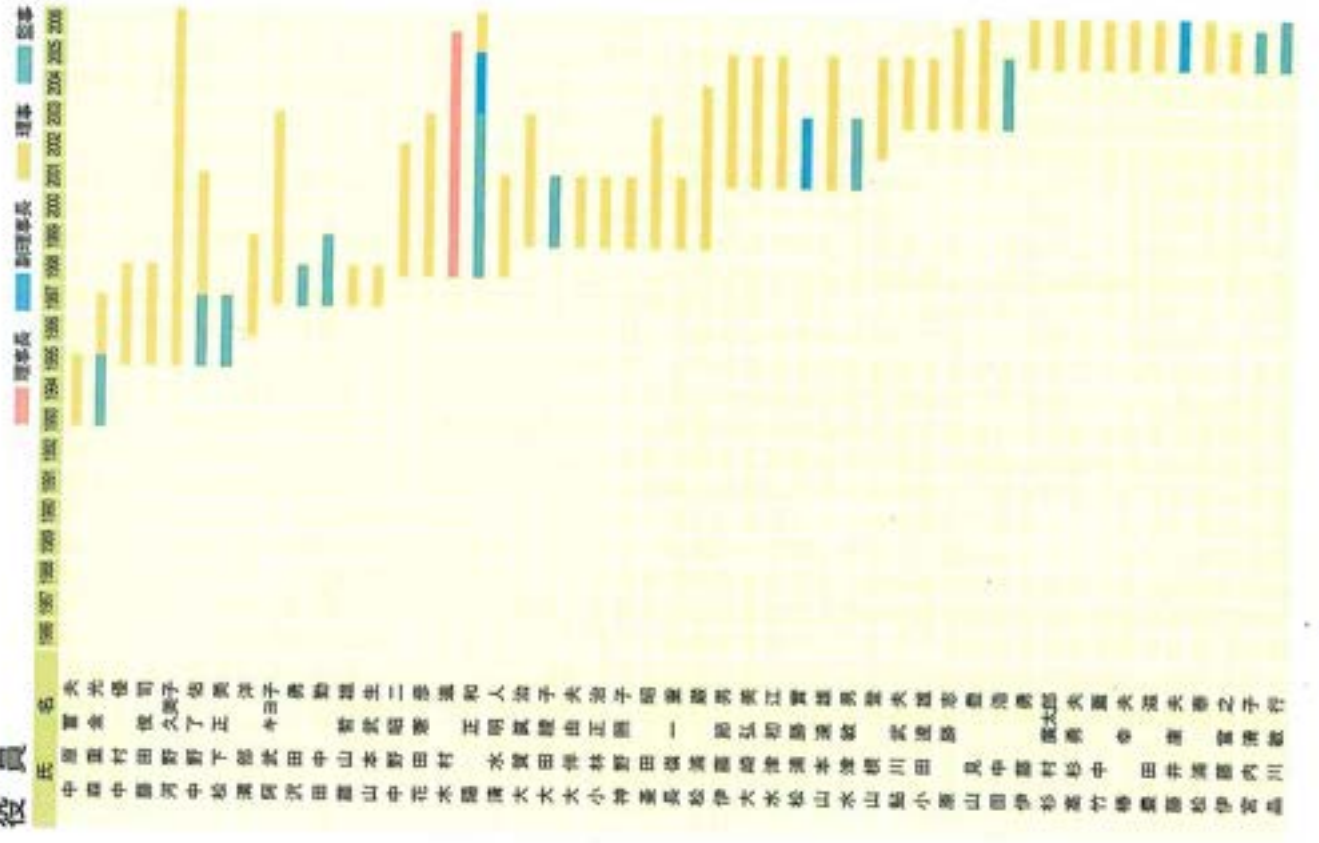
補助金収入・人件費及び人件費率



歴代役員・職員



役員



職員



後列右から

阿武 慧同 事務務所
 森田 一広 事務務所
 長岡 修 事務務所
 近藤 穂江 阿武出張所

前列右から

小橋 一生 事務務所
 堀 理子 事務務所
 渡辺 明 事務務所(兼倉庫) (兼倉庫)
 末益 伸助 事務務所
 有田 源二 ちづみ出張所



阿 久雄 阿武出張所



右から

中村 勝子 田乃川出張所
 宮田 麗麗 田乃川出張所
 五藤 麗三 須佐事務所
 船田 配武 田乃川出張所
 田村 翠子 須佐事務所

職員紹介



後列右から

中野 悠子 監事
 岡 正和 理事(兼倉庫) (兼倉庫)
 河野久美子 理事(専任・兼倉庫) (専任・兼倉庫)
 豊田 滋 理事
 小野 良夫 理事
 山見 豊 理事
 竹中 照 理事
 西杉 勇夫 理事
 杉村隆太郎 理事

前列右から

松浦 繁 理事(兼倉庫) (兼倉庫)
 榎 恭夫 理事(兼倉庫) (兼倉庫)
 藤井 康夫 副理事長
 池永 勲 理事長
 松原 純一 理事(兼倉庫) (兼倉庫)
 岡村 久 理事(阿武出張所) (阿武出張所)
 伊藤 尚 理事
 角川 敏行 監事

現役員紹介

設立20周年記念事業実行委員会

式典部会

部会長 小野 良夫
部員 河野 久美子
田中 浩
大賀 眞治
品川 敏行

渡辺 明
堀 雅子
田村 奏子

記念誌編集部会

部会長 岡 正和
部員 高杉 勇夫
大谷 長太郎
吉屋 恭子
藤谷 幸資

大塚 美秋
渡辺 明
小橋 一生
五藤 麗三

編集後記

社団法人萩広域シルバー人材センターは昭和61年9月に設立され、今年で20周年という記念すべき年を迎えました。この間、分科、同僚、統合といった組織の変遷を経て現在に至っております。

創業に当たるなかで、このような経過をたどりながら地域社会のなかに根をおろし、実績を積み重ねてこられた役員、職員、会員のみなさんの努力に強い感謝を受けました。当センターの前途に心強いものを感ずりました。

この記念誌が、単に20年を回顧するだけでなく、今後の進むべき道を導いてほしいと思います。

本誌の編集にあたりましては、関係各位より厚篤なご祝辞を賜り深くお礼を申し上げます。又会員の皆さんから心躍るご寄稿をいただき誠にありがとうございました。

記念誌編集部会 部会長 岡 正和

社団法人 萩広域シルバー人材センター

設立20周年記念誌 あゆみ

発行日 平成18年10月1日
編集 設立20周年記念誌編集部会
発行 社団法人 萩広域シルバー人材センター
印刷 (有) マシヤマ印刷

※表紙・中表紙：大谷長太郎 (会長) 目次：宇田和道 (会長) の撮影によるものです。

